

研修報告書 No.21

所 属： 東邦大学医療センター大森病院
氏 名： 神山 和久
研修先： 特定医療法人長生会 大井田病院
医療法人聖真会 渭南病院
宿毛市立沖の島へき地診療所

私は2019年3月4日から14日まで大井田病院、18日から28日まで渭南病院で地域医療研修をさせていただきました。地域医療実習で高知県を選択したのは、せっかくならば遠くの縁もゆかりもない場所で、地域医療を感じてみたいと考えたからです。四国に行くのも初めてであったため、行く前は不安に思っていたのですが、終わってしまうと帰るのが寂しいと感じるほど充実した1カ月間であります。

私から見た高知県医療の状況は、やはりマンパワー不足が問題であると思いました。特に小児科、産婦人科が少ないこともあり、出産を控える妊婦には不安があるように思えます。出生数が減少しているため、現状でもやれているが、厳しい状況であると先生方もおっしゃっていました。また高速道路の通っていない地域では移動に時間がかかり、患者の移送も大変という状況でありました。

研修内容は、内科・外科・小児科・救急外来、手術、健康診断、乳児健診、離島診療と多岐にわたり、大変多くの経験を積むことができました。通常の外来業務では、普段大学病院で診察を行っている患者さんと比べて高齢の方が多く、80代後半から90代の方も多く来院されていました。高血圧や糖尿病といった疾患から、高齢な方も畑仕事をやっている方が多く整形外科的疾患を抱えている方も多かったため、先生のご指導のもと様々な処置・手技をやらせていただきました。訪問診療や訪問看護に参加した際には、いままで実際にはわかっていなかった患者さんの退院後の姿や状況を知ることができました。急性期病院である大学病院では、病態が安定したのちは転院となり、その先のことはほとんど知りませんでした。在宅の患者さんでも家族が手厚く介護をおこなっており、医療者よりも患者さんを理解していて、少しの手助けや専門的な検査を行うのみの方もいれば、家族と別居しており近くには誰もおらず、一人で生活している方もいました。今後、東京でも高齢化が一気に進むことで、施設だけでは抱えきれず、在宅の方が多くなると考えられます。その際に必要となる介護の現状を知ることができました。離島診療では、沖の島診療所に行かせていただきました。人口120人前後であり、医療器具も検査も限られている状況での医療を体験することができました。診療所の場所も石垣の上であり、足腰が悪い方では行き来が困難な場所にありました。それでも患者さんは診療所があるからこそ安心して生活できており、信頼される医師となるのがなにより必要と感じました。

今回の臨床研修では、都内には経験することのできない、地域ならではの医療を体験することができました。院長先生が、「小さい地域だからこそ、提供した医療に対する患者さんや家族、行政からの生の声が聞こえてくる。うれしいことも厳しいこともあるけれど、やったことの結果が見えやすいのが地域医療の魅力である。」とおっしゃっていたのがとても印象に残っております。大きな病院では患者満足度調査などがありますが、すべてが反映されているわけではなく、生の声とは少し違うものと思います。私も医療を提供し、患者さんからの生の声を聴くことでモチベーションをあげたり、診療に役立てていきたいと思えます。

最後となりますが、今回の研修でカツオやサバなど美味しいものをたくさんごちそうになり、高知観光も満喫することができました。研修期間中にお世話になりました先生方、病院スタッフ、高知医療再生機構の方々に感謝申し上げます。以上をもって報告とさせていただきます。